



令和6年度発掘調査

埋文

さかど年報



西浦遺跡58区出土比企型坏

坂戸市教育委員会

ごあいさつ

坂戸市は埼玉県の県央部に位置し、主に坂戸台地などの台地、高麗川や越辺川といった中小河川、河川の氾濫などによって形成された肥沃な沖積平野によって形成されています。地形的な好環境により、古くから農業を中心とした産業によって発展してきました。また、坂戸市における人々の痕跡は1万年以上もの昔の旧石器時代にまで遡り、その痕跡は今日の発掘調査により私たちの眼前に姿を表しています。

坂戸市では153箇所が遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）として登録され、市内の開発を契機に記録保存を目的とした発掘調査が行われています。令和6年度では、12地点において発掘調査が行われ、貴重な遺構・遺物が出土しました。日々の生活では体験できない発掘調査の様子を、「埋文さかど年報」を通じて体験していただければ幸いです。

発掘作業風景



年表

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代
約3万5千年前	約1万5千年前	約2,300年前	約1,750年前	約1,450年前	約1,300年前	約1,200年前	約800年前	約700年前	約500年前	約400年前
大陸から日本列島へ人々が渡ってくる	市内で石器が出土(後期旧石器時代) 土器誕生 市内最古の土器が出土(縄文時代早期)	市内各所で環状集落が営まれる(縄文時代中期) 大家地区で多彩な耳飾りが出土	前方後円墳の出現 市内で方形周溝墓が造られる 佐賀県吉野ケ里遺跡の環濠集落などができる	墳丘墓の出現 青銅器(銅鐃)などが使用される 稲作伝来・鉄器などが使用される	大化の改新(乙巳の変)(645年) 市内で大型古墳が造られる 国内で須恵器の生産が始まる	東大寺に大仏が造立される(752年) 平城京周辺に大規模な集落が出現する 若葉駅周辺に大規模な集落が出現する 勝呂庵寺や東山道武蔵路がつくられる	鎌倉幕府成立 壇ノ浦の戦いで平家滅亡(1185年)	室町幕府の成立(1338年) 鎌倉幕府滅亡(1333年)	徳川家康が江戸に幕府を開く(1603年) 大道寺駿河守正繁が坂戸宿を開く(1584) 本能寺の変(1582年)	大坂夏の陣で豊臣家が滅亡する(1615年)

用語解説

【堅穴建物】

半地下式構造の建物。居住だけではなく工房や倉庫等、様々な用途に使用された。

【堅穴状遺構】

堅穴状に掘削された遺構。用途が判別できない遺構に命名されることが多い。

【掘立柱建物】

地面に掘った穴の中に柱を立てて建設した建物。平屋構造、高床構造に分類される。

【地下式坑】 ちかしきこう

地下に掘削された土坑の一種。貯蔵庫や墓などとして使用された。

【カマド】

堅穴建物内に設置された加熱施設。調理や暖房として使用された。

【円筒埴輪】

最も多く出土する埴輪。古墳の墳丘に並べられた。

【土師器】 はじき

古墳時代以降に作られた素焼きの焼き物。焼き上がりは赤褐色や黄橙色になる。

【須恵器】 すえき

古墳時代に朝鮮半島から伝来した硬質の焼き物。ロクロで成形され登り窯を用いて焼成される。焼き上がりは青灰色や灰色となる。

【坏】 つき

古墳時代以降に幅広く使用された器種の一つ。飲食物等が盛られた。

【紡錘車】 ぼうすいしゃ

糸を紡ぐための道具。「紡錘」につけられたはずみ車と軸棒によって構成されている。

【内耳鍋】 ないじ

鉄鍋を模倣して作られた土製の鍋。中世後期の東日本で広く使用された。鍋の内側には内耳（釣り手）が付く。

【緑泥片岩】 りよくでいへんがん

結晶片岩の一種で、埼玉県では長瀬町や小川町付近で産出される。破損しやすいが、加工しやすいため様々な用途で使用された。

No.1 西浦遺跡58区（大字北峰）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年4月11日（木）～5月2日（木）

調査面積：71㎡

検出遺構：古墳2基

西浦遺跡は入西地区の毛呂台地上に位置し、遺跡の近くには葛川くずが流れています。

令和6年の春に実施した58区の発掘調査では、古墳2基が検出されました。古墳の形は、2基とも円墳と考えられ、1号墳からは多量の円筒埴輪片えんとうが出土しています。

西浦遺跡では、今回の発掘調査で発見された古墳の他に、40基以上の古墳が発見されています。これらの古墳は「群集墳」と呼ばれ、主に古墳時代後期にかけて増加する小規模な古墳がまとまって築かれた古墳群を指します。今回発見された古墳も『群集墳』を構成する内の一部と考えられます。これらの古墳にどのような人物が眠っているか定かではありませんが、古墳時代においては神聖な場所であった事は間違いのないでしょう。



←遺構確認状況

重機で表土を掘り下げた後に、人力で遺構の確認作業を行います。調査区内を観察すると関東ローム層（黄色土）と遺構の土（黒色土）の違いがよく分かります。写真手前には1号墳の周溝が、左側には2号墳の周溝も確認できます。

1号墳円筒埴輪出土状況→

円筒埴輪が古墳の墳丘から周溝に落下し、堆積している様子です。細かい破片や大型の破片も有り、風化とともに落下したと考えられます。人物埴輪などの形象埴輪けいしやうは出土しませんでした。



接合した円筒埴輪↑



←土師器 坏（比企型坏）出土状況

1号墳の周溝覆土から残存状態が良い完形の比企型坏が出土しました。比企型坏とは、器面を赤い塗料で彩色した特徴的な土器で、比企・人間地域を中心に隆盛しました。今回出土した比企型坏は、形状的な特徴から古墳時代後期（6世紀後半頃）に作成されたものと考えられます。

さかどじんじゃ なかとみちょう
No. 2 坂戸神社遺跡6区 (中富町)

調査理由：集合住宅建設

調査期間：令和6年6月4日（火）～6月20日（木）

調査面積：80㎡

検出遺構：地下式坑3基、溝1条、ピット7基

坂戸神社遺跡は坂戸駅に近い市街地に位置しており、遺跡の隣地には遺跡名の由来になった坂戸神社が鎮座しています。

今回の発掘調査では、戦国時代の地下式坑が検出されました。地下式坑とは、地中に掘削された地下室の一種で、物品の貯蔵や埋葬施設として使用されたと考えられています。しかし、用途については不明な点も多くその全容は、はっきりとは分かっていません。

今回検出された3基の地下式坑は、一定の間隔を保ちながら構築され、入口は全て東側に設定されるという共通性が

確認できました。出土遺物は少量でしたが、内耳鍋などが出土し、15世紀頃に構築されたと考えられます。市内では、地下式坑に関する類例が乏しいため、今回の発見は重要な成果となりました。



↑ 遺構確認状況

南北に並ぶ土坑（白線）→

地下式坑の形状には統一性が有りませんが、一定の間隔を保ちながら構築されています。調査区域外にも地下式坑が構築されていると思われますが、どのような人物、集団が何の目的を持って地下式坑を構築したのでしょうか。



←3号地下式坑完掘状況

最も残りの良い地下式坑です。天井は崩落し原型はとどめていませんでしたが、天井が崩落した様子は左写真の上部に写る地下式坑出入口の土層断面の様子から確認することができます。



←3号地下式坑出土遺物

3号地下式坑から出土した内耳鍋です。内耳鍋とは、鍋の内側に釣り手がついており、火にかけて使用しました。主に14世紀頃から東日本を中心に広く分布しています。この土器も調理に使われたのでしょうか。

No.3 勝呂遺跡25区（大字石井）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年6月3日（月）～6月22日（土）

調査面積：116㎡

検出遺構：竪穴状遺構2基、井戸1基、土坑2基、遺物集中1箇所



勝呂遺跡25区全景

勝呂遺跡25区は個人住宅建設に伴って発掘調査を実施しました。遺跡名の由来ともなっている「勝呂」は中世に活躍した武蔵武士である「勝氏」に由来しています。また、勝呂遺跡が位置する台地上を見渡すと、県選定重要遺跡の勝呂廃寺や、古墳時代終末期（7世紀頃）の大型円墳である勝呂神社古墳が立地しており、市内の中でも遺跡が集中している地域の一つに数えられます。

今回の発掘調査では、竪穴状遺構2基を含む複数の遺構を検出しました。検出された竪穴状遺構については、不鮮明な点が多いですが、2号竪穴状遺構の内部には複数の小さな掘り込みが確認できたため、粘土などの土取り目的のために掘削された粘土採掘坑である可能性が考えられます。



←2号竪穴状遺構完掘状況

2号竪穴状遺構の内部には、複数の小さな土坑状の掘り込みが確認できます。この掘り込みは、統一的な規格ではなく、形状もまばらです。この形態的特徴からは、粘土採掘坑として利用された可能性が考えられます。

また、竪穴状遺構の内部からは古代の瓦が出土しています。近くにある勝呂廃寺から運んできたのでしょうか。

No.4 西浦遺跡59・60区（大字新堀^{にいほり}）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年7月1日（月）～8月5日（月）

調査面積：153㎡

検出遺構：竪穴建物3棟、掘立柱建物1棟、土坑2基、ピット（小穴）11基

西浦遺跡59・60区では、主な遺構として平安時代（9世紀頃）の竪穴建物3棟を検出しました。12号竪穴建物で検出したカマドには、構築材として灰白色粘土が使用されています。構造的な特徴としてはカマドの煙道^{えんどう}（煙を建物の外に出すための通路）が長く設定されている構造が確認できました。出土遺物はカマドの煙道から土師器甕（武蔵型）^{かめむさしがた}の破片が出土しており、日常的な調理に使用されたと考えられます。その他、須恵器の坏の破片がわずかに出土しました。



西浦遺跡59・60区空撮



12号竪穴建物全景



12号竪穴建物カマド遺物出土状況

No.5 ^{ひいらぎ} 柵 遺跡11区（大字石井）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年8月8日（木）～8月26日（月）

調査面積：59㎡

検出遺構：土坑2基

柵遺跡は坂戸市東部の坂戸台地上に位置する遺跡です。過去の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}や集落跡が検出されています。

今回の発掘調査では、土坑を2基検出しました。土坑の用途は不明ですが、土坑の覆土からは土器片がわずかに出土しています。



土坑完掘状況



出土した土器片

No.6 ^{わかみや} 若宮遺跡7区（大字成願寺^{じょうがんじ}）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年8月19日（月）～9月6日（金）

調査面積：44㎡

検出遺構：竪穴建物1棟、土坑1基

若宮遺跡7区からは竪穴建物を1棟検出しました。検出した竪穴建物は5m×3.5mの長方形でカマド脇に張り出しを持つ特異な建物構造をしています。

残存状態の良いこの竪穴建物は、居住者の踏みしめによって硬化した床面を広範囲にわたって観察することができました。出土遺物はカマドやカマド隅の張り出し部分から土師器甕や須恵器の坏、蓋などが出土しています。日常的な生活食器として使用したのでしょうか。



←遺構確認状況

重機で遺構確認面である関東ローム層まで掘削すると黒色土によって埋没した竪穴建物を検出しました。

左写真では、遺構と遺構ではない地山（関東ローム層）との部分が鮮明に別れている様子が観察できます。写真の破線の部分は、後世の人々によって掘削された痕跡です。^{かくらん}攪乱とも呼ばれています。



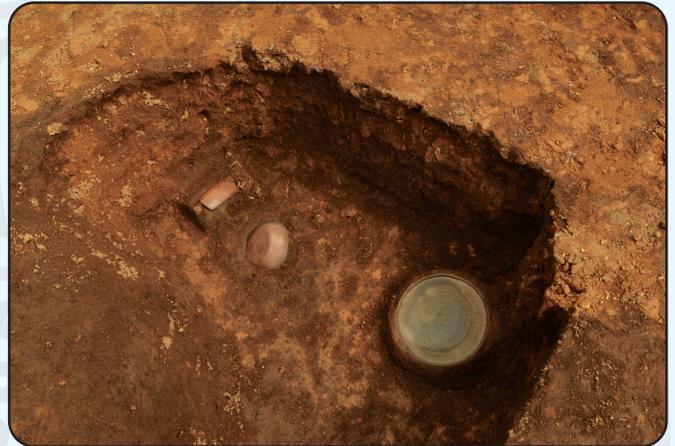
←1号竪穴建物完掘状況

写真上部には灰白色粘土によって構築されたカマドが確認できます。建物の内部には4つの柱穴も検出され、建物の使用時には屋根を支えるため柱が据えられていたと考えられます。

カマドの作りも頑丈で、火の熱による被熱も受けており、頻繁に使用されていたことが分かります。4～5人の家族が居住していたのでしょうか。



カマド遺物出土状況



張り出し部分遺物出土状況

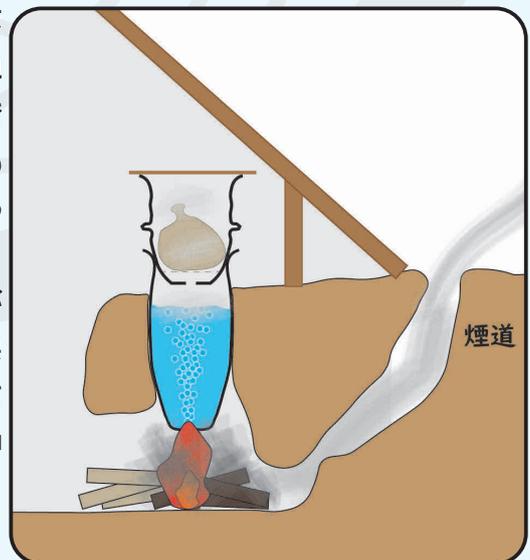
コラム ～「カマド」古代の台所～

カマドは5世紀頃（古墳時代中期）に朝鮮半島から伝わったと考えられています。カマドが普及する前は、「^ろ炉」が煮炊きの中心として使用されていましたが、カマドの普及により炉で調理をするというスタイルは姿を消していき、カマドを使用する新しい調理スタイルが確立していきます。

日本に普及したカマドには構築資材として粘土が使用されません。細かい造り方は地域によって様々ですが、構造上の共通点として煙道・煙突が設けられています。これらは、カマドでの燃焼によって生じる煙を建物外に排出する設備であるとともに、カマド内部の空気の循環を促す通気口としての役割を担っていました。

また、カマドには一家の盛衰を司る火の神として「^{かまどがみ}竈神」が祀られていたとされています。古代中国では、カマドの煙と共に^{てんてい}竈神が天に登り、天帝に一家の善悪を報告すると信じられていました。そのため、日本においても中国などの影響から竈神が信仰されたと考えられています。

このように、カマドは生活に密接に関わる設備であると共に、精神の拠り所としての機能を兼ね備えていました。



カマド復元断面図

かけのうえ No.7 欠ノ上遺跡1区（大字成願寺）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年8月19日（月）～9月9日（月）

調査面積：49㎡

検出遺構：竪穴建物2棟

欠ノ上遺跡は大家地区の葛川^{くずかわ}を眼下に見下ろす台地上に位置しており、令和6年度に初めて発掘調査を実施した遺跡です。

調査結果としては、平安時代（9世紀）の竪穴建物を2棟検出しました。1号竪穴建物はカマドを含めて全体の約30%程を調査することができました。2号竪穴建物は土壌の攪乱により、建物範囲の多くが破壊を受けていましたが、須恵器の坏や鉄製紡錘車の一部破片など、当時の生活の様子が見られる遺物が出土しました。

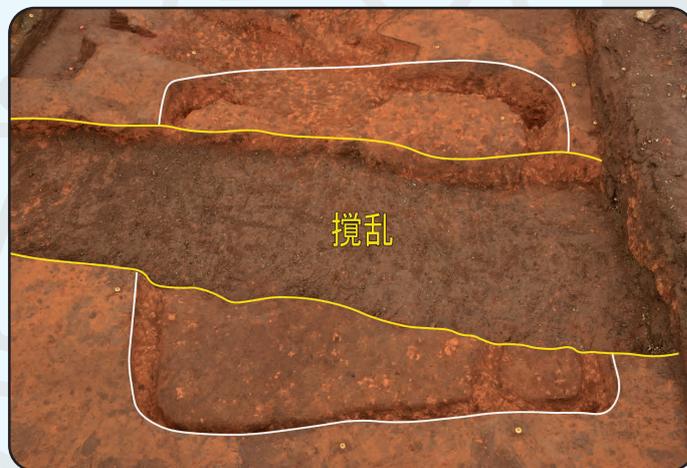


←1号竪穴建物完掘状況

1号竪穴建物は、カマドが良好な状態で残存していました。建物の外側に伸びる煙道もはっきりと確認できます。出土遺物は僅かに須恵器の坏、土師器の甕が出土しています。

2号竪穴建物完掘状況→

白線が2号竪穴建物の範囲、黄線が攪乱を受けている範囲です。建物の中央にかけて、攪乱による破壊を受けており、2号竪穴建物に備え付けられていたカマドは残存していませんでした。このような攪乱は、発掘調査を行う遺跡で頻繁に確認されます。



←2号竪穴建物出土遺物 （須恵器坏・鉄製紡錘車）

写真左は須恵器の坏と鉄製紡錘車の一部です。鉄製紡錘車は軸棒と呼ばれる糸を巻きつける部分が欠損しています。これらの遺物は建物床面の直上から出土していますが、欠損が見られるため建物の廃絶と共に廃棄されたものと思われる。



はなみづか No.8 花見塚遺跡27区 (大字小山) こやま

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年10月28日（月）～12月2日（月）

調査面積：62.4㎡

検出遺構：竪穴建物5棟、土坑2基、ピット（小穴）2基

花見塚遺跡27区の発掘調査で検出した竪穴建物は、複数棟が重複（建物が重なりあっている）している様子が確認できました。竪穴建物はほぼ同じ位置に建設されているため、複数回に渡って建て直しが行われたのかもしれませんが。出土遺物からは主に古墳時代終末期（7世紀頃）の遺物が出土しています。



←須恵器甕^{かめ}破片
竪穴建物から須恵器の甕の破片が出土しました。波状文^{はじょうもん}と呼ばれる文様が付けられています。

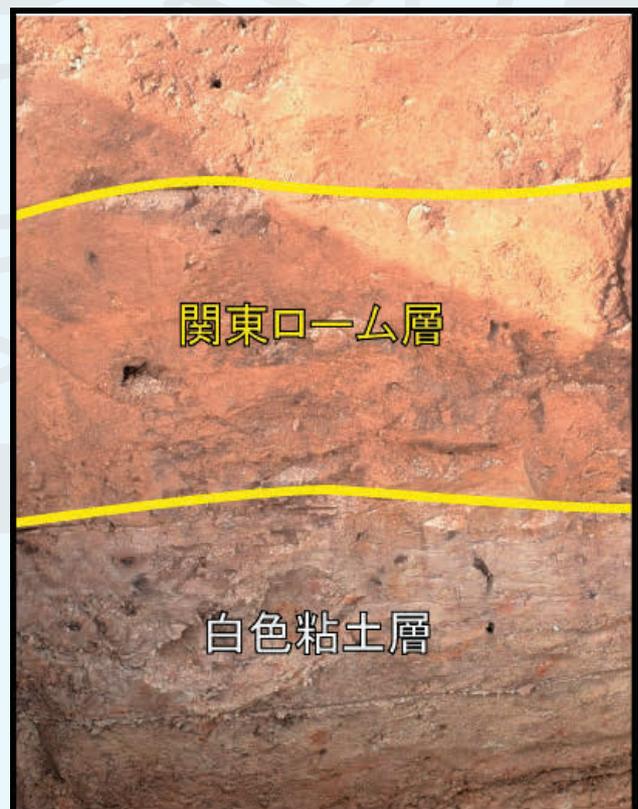
←花見塚遺跡27区全景

写真手前に見える窪みが検出された竪穴建物です。複数回に渡って同じ位置に建て替えられたためか、建物の原型が分かりづらい不整形な形状になっています。

コラム ～古代人と粘土～

本誌 (P6) で紹介している西浦遺跡59・60区では、カマドの構築に多量の粘土が使用されていました。59・60区に限らず、近辺の調査区でも煙道が長く、粘土が豊富に使用されたカマドがいくつも検出されています。では、この多量の粘土はどこから採取されたのでしょうか。

西浦遺跡59・60区周辺の土の堆積は、関東ローム層を基本とし、河川に近づくほど砂利を多く含むようになります。現在の地表面から約1m掘り下げると、細かい砂粒を含む灰白色の粘土層に到達します。カマドに使用されていた粘土も灰白色の粘土であったため、古代の人々は地面を掘り下げ、カマドの構築などに適した粘土を採掘していたと考えられます。意外にも、集落の周辺といった身近な場所で採取していたようです。



No.9 西浦遺跡61区（大字新堀）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和6年10月29日（火）～11月19日（火）

調査面積：114㎡

検出遺構：集石1基、土坑1基、ピット（小穴）6基

西浦遺跡61区の発掘調査では、^{しゅうせき}集石を含めた複数の遺構を検出しました。集石とは、石が土坑などに敷き詰められた状態で出土する遺構のことで、主に縄文時代の遺跡で多く発見されます。用途としては、熱した石を土坑に敷き詰め、蒸し焼きや石焼きといった調理に使用されたという説が有力です。

今回の発掘調査で検出された集石は、大きい石は下層に、小さい石は上層に敷かれている様子が観察できました。比較的小規模の集石ではありましたが、総重量96kgの石が敷き詰められていました。



←集石検出状況

直径約100cmの土坑の内部には、石が敷き詰められていました。検出した集石には火を使った痕跡は確認できませんでしたが、市内の他の遺跡では、熱を受けている被熱の痕跡や炭化した有機物が確認されています。



←縄文土器片

調査区から出土した縄文土器です。近くに集落が存在していたのでしょうか。

No.10 新山古墳群5区（^{にいやま}清水町）

調査理由：個人住宅建設

調査期間：令和7年1月23日（木）～2月6日（木）

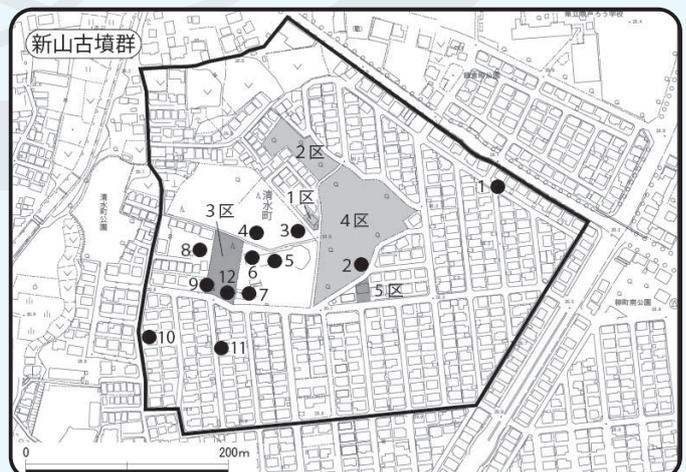
調査面積：35㎡

検出遺構：古墳周溝1条（新山2号墳）

新山古墳群は清水町内に展開する古墳群で、これまでに12基の古墳が確認されています。地形的には坂戸台地の西側縁辺部に位置し、古墳群の西方には飯盛川が流れています。

調査対象となった新山2号墳は、過去に2回の発掘調査が行われており、古墳時代終末期（7世紀頃）に築造された横穴式石室を持つ大型の方墳であることが分かっています。

古墳時代終末期（7世紀頃）では、全国的な流れとして、古墳の代表格であった^{ぜんぼうこうえんふん}前方後円墳の築造が停止し、大型の円墳や方墳が築造される時代となります。新山2号墳もこのような時代背景の中で築造され、古代の坂戸周辺を治めた豪族の古墳であると考えられます。



新山古墳群位置図



←新山2号墳空中写真

黄線は新山2号墳の周溝範囲です。今回の発掘調査では、古墳の周りをめぐる南側の周溝部分が調査対象となりました。調査の結果は、おおよそ想定通りの位置で南側周溝が検出され、新山2号墳の全体像を把握するうえで重要な成果を挙げることができました。

南側周溝確認状況→

黄褐色土が遺構確認面である関東ローム層、黒色土は新山2号墳の周溝の堆積土です。写真上部に小さな高まりとなっている場所が新山2号墳の墳丘です。周溝内からは、石室の構築に使用された緑泥片岩りよくていへんがんのかけらがわずかに出土しています。



コラム ～須恵器概説～

須恵器は5世紀初頭（古墳時代中期）に朝鮮半島から伝わってきた焼き物です。よく対比される土師器とは根本的に作成方法が異なり、ロクロを使って成形し、登窯のぼりかまによって焼成されます。窯を使うことにより高温で焼成することが可能となり、土師器に比べて丈夫で硬質に焼き上がります。

古墳時代では主に古墳への副葬品として限定的に生産されましたが、時代が下り奈良時代に入ると、日本各地で大量に生産されます。特に坂戸市周辺では、南比企窯跡群みなみひきようせきぐん（比企郡鳩山町、嵐山町、ときがわ町）や東金子窯跡群ひがしかねこようせきぐん（入間市周辺）などが開窯かいようし、普遍的な集落でも食器や貯蔵具として広く重宝されました。

隆盛した須恵器生産も10世紀頃（平安時代）を境に、一部の地域を除いて下火となります。原因としては、律令制の崩壊とともに大規模生産が困難になったという説や、窯業生産に必要な不可欠な薪などの物資が不足した説など複数の説が唱えられていますが、はっきりとした理由は分かっていません。しかし、須恵器生産から始まった日本の窯業技術は現代の陶器生産にしっかりと引き継がれ、陶器は我々の生活に欠かせない生活必需品となっています。

No.11 柁遺跡12区（大字石井）

調査理由：個人住宅建設 調査期間：令和7年2月26日（水）～3月26日（水）

調査面積：74㎡ 検出遺構：掘立柱建物1棟、井戸2基、溝2条、ピット（小穴）20基、土坑3基

柁遺跡12区の発掘調査では、掘立柱建物を中心とした複数の遺構を検出しました。掘立柱建物とは、素掘りの穴に木柱を据え付けて建設する建物の総称です。高床式の倉庫や居住空間として利用されたと考えられています。

今回の調査で検出した掘立柱建物の柱穴には、複数回の掘り直しが確認できました。掘り直しに伴って新しい柱が建てられ、建物の建て替えが行われたのかもしれませんが、出土遺物が希薄なため年代の特定は難しいですが、少なくとも平安時代以降の建物であると考えられます。



←掘立柱建物完掘状況

白線が掘立柱建物の柱穴です。今回の調査では、4基の柱穴を確認できました。現状だと3間の柱間ですが、調査区外にも柱穴が発見される可能性が高いです。

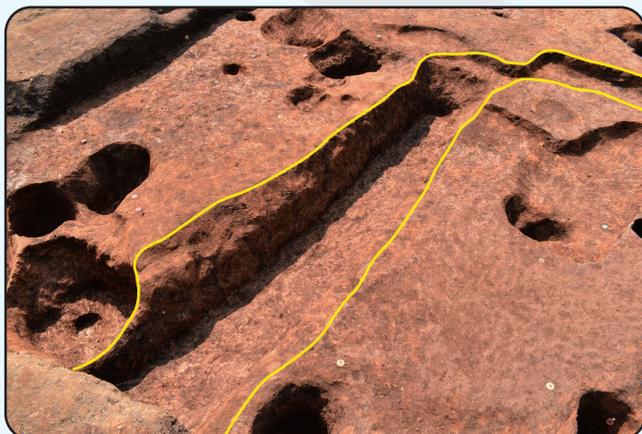
2号井戸→

直径約140cmの井戸を検出しました。井戸の覆土中からは、右写真のような石や少量の土器片が出土しています。井戸の年代観を推測する事は難しいですが、少なくとも平安時代（9世紀）頃には掘削されたと考えられます。



←1号溝

調査区中央付近で溝を検出しました。溝の幅は約100cm、深さは約60cmを測ります。溝の底は平らで、形状は逆台形となっていました。溝からは、平安時代（9世紀頃）の須恵器片が出土しています。用途としては、集落を区画する溝や水路などとして使用された可能性が考えられます。

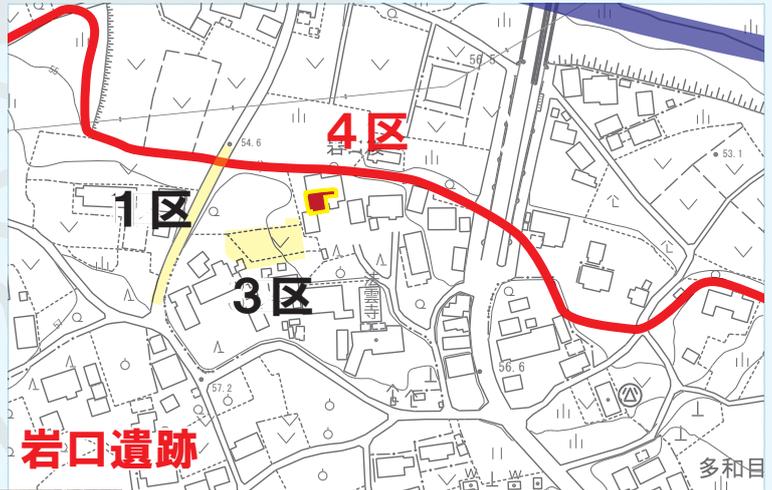


《番外編》市指定文化財

岩口遺跡4区 1号住居跡出土遺物一式

平成12年度（2000年度）、坂戸市西端に位置する岩口遺跡4区の発掘調査が実施され、縄文時代晩期の竪穴住居跡（当時の名称のまま）2棟が発見されました。調査では、縄文時代後期から晩期の土器約15,000点（破片含む）、石器約1,900点、耳飾30点、骨角器1点などが発見され、その大半を1号住居跡から出土したものが占めます。令和6年度に報告書刊行作業を行う中で、本市で希少な縄文時代後期から晩期の資料群であることや、他地域の影響を受けた土器があり、当時の地域間交流を知るうえで貴重な資料であることが明らかになり、全出土資料約17,000点のうち、残存状況が良好、または遺跡の性格を語るうえで重要な出土遺物計479点を令和6年3月付で、市指定文化財（考古資料）に指定しました。

岩口遺跡周辺位置図→



1号住居跡全景写真

土器



土器は関東地方在地の土器様式（安行式土器）だけではなく、東北地方の土器と似た文様構成をもつ土器も発見されています。

石器

矢じりや石斧の他、石棒などの祭祀具が出土しました。



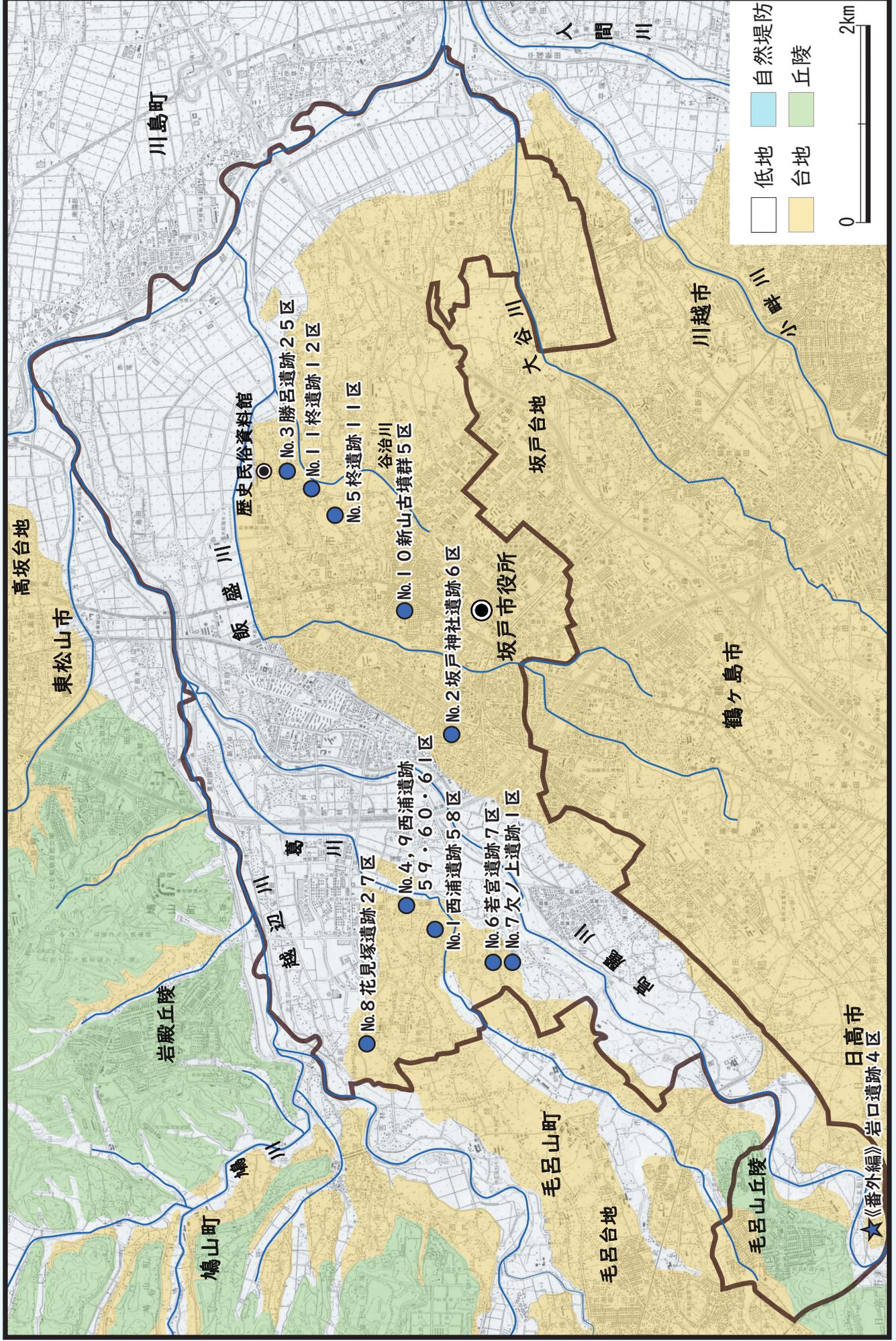
装身具

土製耳飾りは装飾性豊かで大きさにもバラエティがあります。動物骨を加工した髪飾りの一部も発見されました。



イノシシ骨集中区
焼けたイノシシ骨が集中して発見されました。祭祀跡とみられます。

令和6年度発掘調査地点



■発行：令和8年2月27日
 ■発行者：坂戸市教育委員会 坂戸市千代田一丁目1番1号
 ■印刷：有限会社 東京工芸社

埋文さかど年報
 令和6年度発掘調査